

意見交換会実施報告書（地区コミ単位）

【5班】

地区コミ	手打地区コミュニティ協議会	参加人員	9人
開催日時	平成26年 5月30日（金） 19:00 ～ 20:45		
開催場所	手打地区コミュニティセンター		
出席議員 （担当）	議員名	出欠	担当
	川畑 善照	○	
	杉菌 道朗	○	司会進行
	永山 伸一	○	議会活動報告
	議員名	出欠	担当
	持原 秀行	○	記録・報告書作成
	帯田 裕達	—	

意見交換の内容

（凡例 ◆地区の意見 ◇議員の意見）

1 下甌公民館の早期再建について

《意見交換の概要》

- ◆ 下甌公民館は、耐震検査により耐震強度が不足しているとのことで、平成25年4月から使用禁止となっている。この公民館は、教育的・文化的活用のみではなく、広く地域住民が有効的に活用してきた施設である。敬老会等の行事のほか、台風時の避難所としても安心・安全な施設として活用してきた。この公民館は地域の拠り所として大変重要な施設である。現在、代替の施設も無いことから、早急に施設の再建をお願いしたい。
- ◇ 耐震結果に基づき、その処理方策を検討した。他の施設の改善と併せて対応できないか検討・調整してみたがうまくいかなかった。今後の計画としては、施設の解体及び再建計画等について平成27年度予算要求したいと考えている。
- ◆ 代替として、小学校体育館において参加者200人規模の敬老会を実施したが、暑くて大変であった。この公民館が耐震補強不可の施設であるのであれば、解体と同時に再建をするという約束をしてほしい。
- ◇ 公民館が利用できないことで、いろいろ支障が出ていることは承知している。解体し新しい公民館の建設となると、多額の経費が必要となることから関係部署と今後の整備方針について検討・協議を早急に進めていきたい。

2 手打港待合所の有効利用について

《意見交換の概要》

- ◆ 明治以降就航していた定期航路の手打港寄港が廃止となり、現在、手打港待合所は未利用のままである。この施設の有効利用を図るため利活用検討委員会を設置し、手打地区コミュニティ協議会が中心となり、前向きに検討することとなった。人口減少等により衰退する地域にとって、地域活性化の起爆剤となるよう、地区民一体となって施設の有効活用の推進に努めようと具体的に検討を進めているので、行政の支援をお願いしたい。また、当地区周辺の自然豊かな磯場等を利用し、施設と一体となった活用策を検討することになる。これらのことについてのご支援もお願いしたい。
- ◆ 6月10日に、30人規模の実行委員会を開催する。コミュニティビジネスを含め観光の拠点施設として活用するために活動していきたい。議員にも後押しをしていただきたい。
- ◆ 長い歴史ある手打の玄関港が無くなった寂しさを十分理解して欲しい。現存する施設、観光船おとひめを含め、これらを大事に使って付加価値を高めていく必要があることを考えてもらいたい。
- ◇ 甌島の海はすごくきれいである。このことも一つの売りであると思う。本格的な魚釣りで

はなく、一般の観光客、子ども達も含めて、岸壁からの魚釣りなど、海を身近に感じさせ楽しめるスポット的な素材を取り入れることも大事ではないかと考える。特定離島ふるさとおこし推進事業を活用し、利活用検討委員会で具体的内容や運営などについて検討していただきたい。市としてもしっかり支援していきたい。

3 高速船甌島の有効利用について

《意見交換の概要》

- ◆ 話題性のある高速船甌島が就航し、甌島観光も一段と活性化するものと期待している。しかしながら、甌島住民が高速船を利用した場合、本土での滞在時間が短時間であり、高速船を利用しにくくなっている。本土での滞在時間を少しでも長くすることにより、市内での買い物・病院への通院・公務等、日帰りでの有効利用が図られるのではないかと。現在運行されているダイヤでは、余りにも滞在時間が短かすぎる。島民の足であるという説明からすれば、島民の側に立ち、夕方川内港を出港するような運行ダイヤへの改正をお願いしたい。
- ◇ 運行ダイヤについては、新高速船を就航する際に、国・県・甌島商船と協議した結果、現在のダイヤに決定されたものである。川内港を夕方に帰港することになれば、川内港に帰港する時間が日没時間を過ぎることになる。このことについては、市のみでは決められない案件であるので、皆様の提言・要望はしっかりと受け止め伝えたい。

4 下甌支所の存続について

《意見交換の概要》

- ◆ 市職員の人員削減により、支所の機能も縮小の傾向にある。離島に居住する住民にとって支所は生活する上の全てにおいて拠り所である。特に台風時の災害対策等支所の果たす役割は、島民の安心・安全上において大変重要である。時代の趨勢により支所機能が縮小傾向になるのは致し方ないが、支所の廃止に繋がるような政策だけは、どうしても避けていただきたい。
- ◇ 支所は島民の拠り所・地域の拠点であるということは十分理解している。これは本土の4支所においても同じ考え方である。地域防災の拠点としても重要であり、原子力防災計画による避難問題等もあり、支所の機能は重要であると認識している。藺牟田瀬戸架橋完成後はどうなるのか不明ではあるが、当面の間について支所廃止はないものと理解している。

《主な要望・意見等》

- ◆ 支所がなければ、災害緊急時・台風時の本土から応援、本庁のみでの対応はできないと考える。
- ◆ 災害時には支所職員は大きな力となっている。現状維持ではなく機能充実をしていただきたい。
- ◆ ゴールド集落内においては、災害時に要援護者を支援する住民がいらない。支所が頼みの綱である。
- ◆ 離島には、離島振興課なりを設置し、支所の職員を増やしてほしい。
- ◆ 支所職員の本土異動により、若手職員がいなくなるため、地域の伝統行事・郷土芸能・トシドンの存続も難しい。

5 その他

《要望等》

- ◆ 離島振興計画についての説明会を実施して欲しい。その中において、若者の定住促進、雇用の創出などの進捗状況を示していただきたい。進行計画が絵に描いた餅になってはならな

い。

- ◆ 道路に生い茂っている木・竹類の伐採を。道路案内標識の充実がなければ、来島者に対し不安や不便をかけている状況にある。
- ◇ 県道・市道という垣根を越えた対策が必要である。案内標識にしても市が対応すればできることについては取り組んでいくべきと考える。
- ◆ 離島振興・原子力政策の面からも、上甕・里地域からの避難施設、あるいは複合施設として下甕公民館の建設ができないのか検討していただきたい。
- ◆ お盆や正月の混雑する時期は、串木野港においてバスや電車の時間に間に合わない実態があり、串木野港に着く20分以上前から船内に行列ができ、高齢者には負担が大きい。フェリーの昇降口を1ヶ所増やし2ヶ所設置して欲しい。
- ◇ この件については、主管課を通して会社へつないでみたい。
- ◆ 支所職員の異動については、子どもを持った若い職員を支所へ異動配置して欲しい。ゴールド集落にならないための施策としても必要である。

* 要望等の対応結果

- 下甕公民館の早期再建については、持原議員が6月定例会で一般質問を行い、「利用できない事で地元の皆様方へご不便をおかけしており、代替施設整備の必要性は認識している。現在、既存の公共施設の利活用や財源対策等を含め検討しており、これに合わせて現公民館の解体についても検討して行きたい」との答弁がなされた。
- 手打港待合所については、地域で有効利用を図るべく平成24年度、市において「待合所利活用検討委員会」を設置、特定離島ふるさとおこし推進事業を活用して民間業者へ委託、平成25年度までの2年間検討してきた。平成25年度までの協議結果として待合所は、食事の提供・物産販売・コミュニティ施設として活用することとし、運営は手打地区コミュニティ協議会が実行委員会組織を作り運営することとなっている。
平成26年度も特定離島ふるさとおこし推進事業を活用して、運営団体である手打地区コミュニティ協議会の実行委員会組織の具体的な内容や運営、経営へ向けての研修、施設内容の詳細を検討していくこととしている。
- 高速船甕島の運行ダイヤについては、高速船甕島の就航にあたり、国・県・甕島商船と協議した結果、現在のダイヤで決定したところである。運行ダイヤについては、利用者の意見を聞きながら、来年度に向けて検討していくこととしているが、要望に沿った運航をするためには夜間運航が必要となり難しい。
- 甕島地域の離島振興計画策定作業は、平成24年8月から平成25年3月までの間に行われ、市は総合計画での位置付けや取り組み、地元からの要望等を踏まえて県に対し、意見を述べたところである。その後、甕島地域の離島振興計画は、県が平成25年4月に改定した。(平成25年4月～平成35年3月の10年間)
県は甕島地域を含む鹿児島県の離島振興計画(案)のパブリックコメントを実施し、最終案が取りまとめられた。現状では、県のホームページにおいて、公表されており閲覧できる状況となっている。このため、県が策定した離島振興計画について、改めて地元説明する考えは持っていない。なお、地域が抱える課題等に対し、どのように考えているかなど市として対応すべきものについては、適宜説明会などを開催していきたい。